

麦 作 情 報 第 1 号

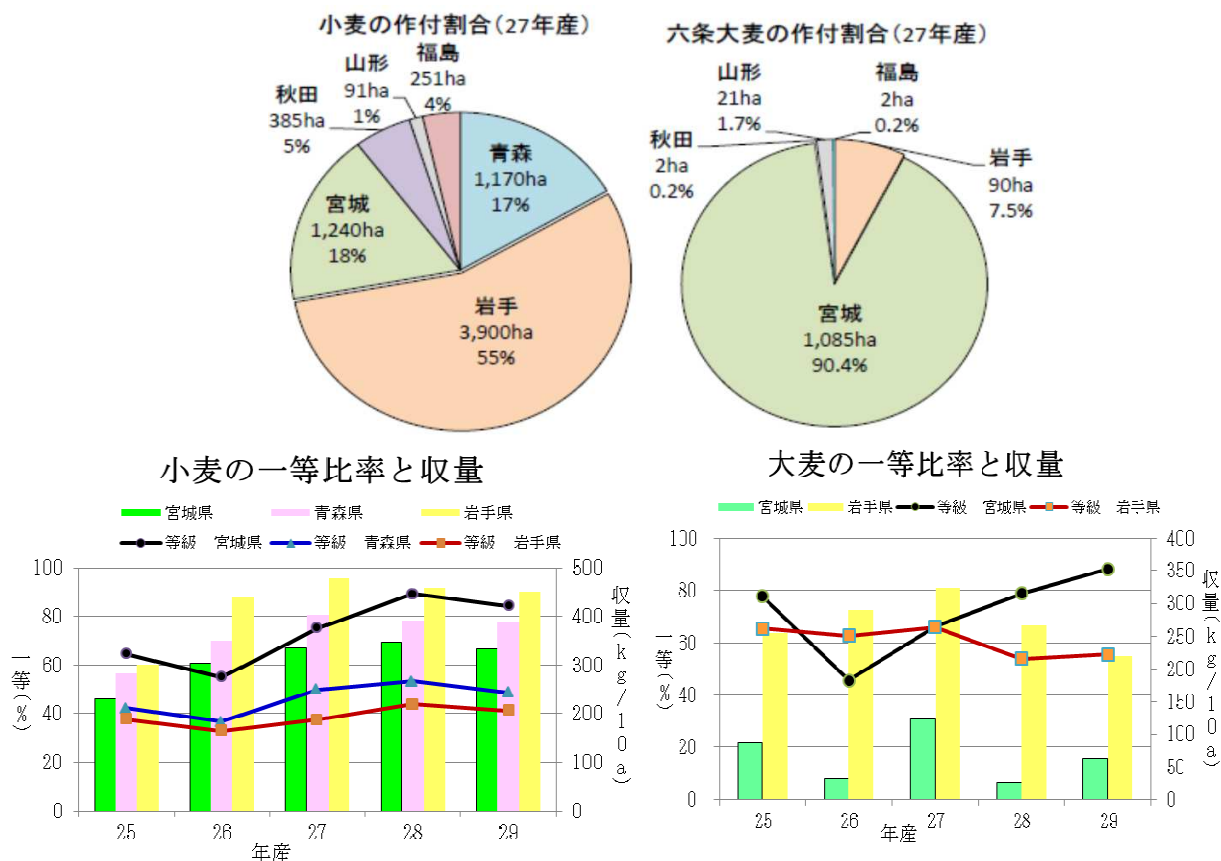
平成 29 年 10 月 15 日：JA全農みやぎ

～麦の栽培ポイントは、「適期播種」「排水対策」！！～

1 宮城県を中心とした麦の生産概況

(1) 東北地方と主産県の収量・品質

- ・小麦の作付面積は、岩手県に次いで多く、大麦は宮城県が東北一で 90%を占める主産県である。
- ・小麦の等級は、60%台で推移しており、他の 2 県（岩手、青森）に比べてやや低い。
- ・大麦の等級は、例年 20%未満となっており、岩手県の 60～70%台に比べて低い。
- ・収量は小麦大麦とも東北で最も多収、小麦で 300～400kg/10a、大麦で 250～350kg/10a である。
- ・小麦生産量は岩手県に次いで多く、平成 29 年産は 5,177t、一等比率は、68.5%であった。
- ・大麦生産量は、3,841t と東北のほとんどを占めるが、一等比率は、15.6%であった。



(2) 宮城県の平成 29 年産の生育と品質概況

1) 12 月の生育

- ・播種前後少雨で乾燥したため、大麦、小麦とも出芽日数が 10～11 日と平年より長かった。
- ・出芽は概ね良好であったが、大麦、小麦とも草丈、葉数、茎数は平年より少なかった。

2) 2 月の生育

- ・草丈は、大麦・小麦とも平年より短く、葉数は、大麦・小麦とも平年並みであった。

- ・茎数は、大麦では平年並み～やや多く、小麦では平年並み～やや少なかった。
- ・大麦、小麦とも年内の生育量は小さかったが、その後高温傾向で平年並みに回復した。
- ・大麦は、平年より13～21日早く幼穂形成始期に達し、小麦は概ね平年並みであった。

3) 3月の生育

- ・草丈は、大麦で平年より短く、小麦は平年より長かった。
- ・茎数は、一部品種を除き、大麦・小麦とも平年より少なかった。

4) 4月の生育

- ・草丈は、大麦、小麦とも平年並み～やや長かった。記録的暖冬の前年比より短かった。
- ・茎数は、大麦、小麦とも平年並み～やや少なく、前年並み～やや多かった。
- ・葉数は、大麦で平年より多く、小麦は平年並みであった。
- ・幼穂形成始期は、大麦が13～21日、小麦が4～12日、平年より早かった。

5) 5月の生育

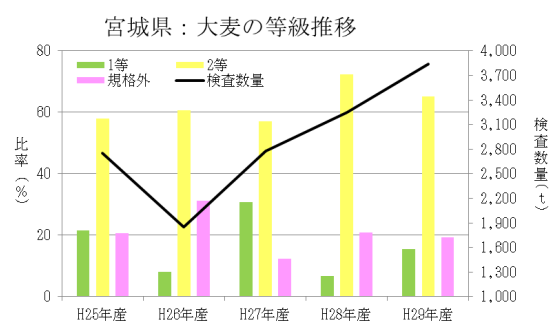
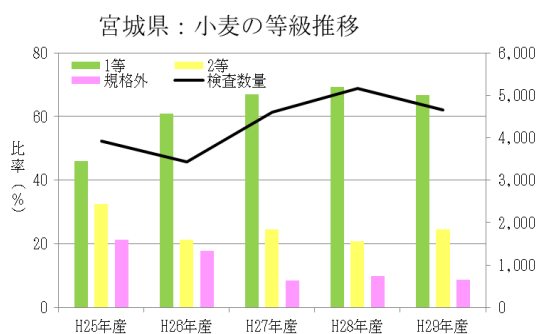
- ・大麦・小麦ともに茎立期、減数分裂期、出穂期等の生育ステージは平年に比べて早かった。
- ・出穂期以降の気温が平年並み～やや高く、成熟期は平年並み～やや早かった。

6) 作付面積と収量

- ・作付面積は、小麦1,200ha、大麦1,062haで収量は、小麦422kg/10a、大麦352kg/10aとなった。

7) 品質

- ・小麦は、一等比率は、69%と昨年産の最終をやや下回ったが高い比率となった。
- ・銘柄別では、「シラネコムギ」が一等比率71%と概ね良好であるが、「ゆきちから」の品質は良好で一等比率は81%と前年並みとなっている。
- ・大麦は、一等が16%、2等が65%になっており、昨年より高いものの低位に留まった。



(3) 昨年の病害虫発生状況

1) 縞萎縮病

- ・4月の調査で2地点、オオムギ縞萎縮病の発生が確認された
- ・縞萎縮病は土壌伝染性のウイルス病であり、農機具等に付着した汚染土の移動で拡散する。

2) 赤かび病

- ・6月調査で小麦は、発生地点率は54.5%で平年(69.9%)よりやや低かったが、発病穂率は2.1%で平年(3.7%)並だった。

- ・大麦では、発生地点率は40.0%で平年（38.3%）並で発病穂率は1.5%で平年（0.8%）よりやや高かった。

3) うどんこ病

- ・5月調査21 地点のうち1 地点において、発生が確認された。
- ・春が温暖で雨が多く、早くから繁茂した年に発生しやすい。

2 平成29年10月の気象予報

- ・平年に比べ晴れの日が少ない。
- ・降水量は、平年並～多い確率ともに40%
- ・日照時間は、平年並～少ない確率が40%
- ・週別の気温は、1週目は低い確率50%, 2週目は、高い確率60%

【1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)】

【気 温】 東北地方	30	40	30
【降 水 量】 東北太平洋側	20	40	40
【日照時間】 東北太平洋側	40	40	20

◆週別気温経過の各階級の確率(%)

1週目 東北太平洋側	50	40	10
2週目 東北太平洋側	10	30	60
3～4週目 東北地方	30	40	30

■ 低,少 ■ 並 ■ 高,多

3 平成30年産麦の生産に向けて

- ◆麦は、冬に向けて生育する作物なので、生育量の確保が最も重要である。（北ほど早い播種）
- ◆本年は稲刈が遅れており、できるだけ早く計画的に播種作業を進めることが重要である。
- ◆麦の播種後、生育促進や今後の生育確保のため、暗渠・明渠・弾丸等の排水対策を徹底する。

(1) 適期播種

- ・播種が遅れると分げつの発生が遅れ、根張りも不良で寒害にも弱い。
- ・生育の遅れは、遅発分げつの発生が多く、未熟粒や硬質粒が発生で品質が低下する。
- ・播種量は、大麦で8～10kg/10a, 小麦で9～11kg/10aを基本とする。
- ・赤かび病等の防除のため種子更新, 選種, 種子消毒を確実に実施する。

【播種期】 北部平坦及び三陸沿岸地帯 晩限 10月20日
南部平坦地帯 晩限 10月30日

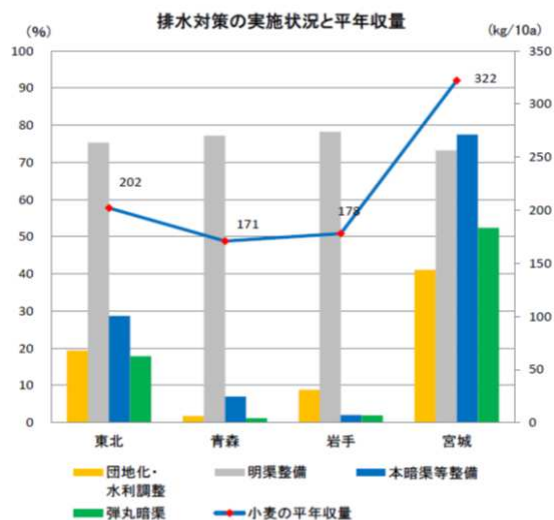
4月



「夏黄金」
(古試)

(2) 排水対策

- ・宮城県が東北地方で単収が高いのは排水対策による。
- ・圃場内にも明渠（30～40cm 深）を設置し、本暗渠，弾丸暗渠を組合せる。
- ・排水不良田では，出芽後や冬季の寒害等で密度や茎数が確保できない。



明渠設置
の麦圃場
(4月)

(3) 適期刈取

- ・麦の刈り取り期間は，梅雨期に当り，特に小麦では，多雨条件下であり雨の合間に作業を進める。
- ・麦刈取時期における過去 20 年間の日別平均降水量を見ると，6 月下旬～7 月上旬までが講師料が少なく，できればこの期間に刈り取ることが望ましい。

麦刈取期間の降水量(過去20年平均：古川)

